

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100632		
法人名	有限会社 佑紀苑		
事業所名	グループホーム佑紀苑 佐賀		
所在地	佐賀市兵庫町大字若宮2125-1		
自己評価作成日	令和3年 10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年11月17日	外部評価確定日	令和3年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田んぼに囲まれ、四季折々の風情を感じながら、大きな窓から光が差し込むリビングにて、皆様のんびりとした時間を過ごされている。残存機能を活かしながら、できることはして頂き、ともに助け合い生活している。長年、働いているスタッフも多く家庭的な雰囲気の中で一人ひとりが安心して楽しく過ごすことができるよう支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

車で5分くらいの所には大型のショッピングセンターがあるが、グループホームの周りは閑静で、車もほとんど通らないような静かな場所に位置している。そのため、季節が良い時には毎日のように散歩に行くことができ、その中で地域の方にお花を頂いたり、話しかけてもらったりし、交流を深めている。周りには田んぼなどの自然がたくさんあることで、会話の中でも自然がたくさん出てくる。
ホームの中は職員・利用者の笑いが絶えず、毎日の生活の中で「笑い」を大切にしている。リビングも窓が大きく日が差し込み、暖かい雰囲気がある。臭いにも配慮されており、掃除をこまめに心掛けているため、臭いが全くしない。
協力医の医院の先生は車で5分～10分のところに住まれているため、往診や緊急時などもすぐに駆け付けてくれる。現在、必要とされている看取りにも、取り組まれており、担当者会議にも先生が出席されるくらい熱心でグループホームとの関係がしっかり築けている。ご利用者、ご家族、職員の安心につながっている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、目につくところに掲示し、「やすらぎと笑いのある楽しい生活」を念頭におき、笑顔あふれるケアを心かけている。	理念は「地域の中の一つの家として、やすらぎと笑いのある楽しい生活を私たちと一緒しましょう」としており、事務所内の目に入るところに掲げている。以前は、理念の中に、「笑い」という言葉は入っていなかったが、事業所は笑いや笑顔が絶えない事が長所だと思い、理念を「笑いのある～」と変更した。理念はミーティング内で読まれ、職員にも浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で難しく、断念せざるを得なかったが、苑での行事には、地域の方々を招待したりと交流を行っている。	コロナ禍で地域の方との交流は減ってしまったが、老人会長さんとの仲が良く、地域との関わりは深い。区費も支払っており、回覧版も回ってきている。最近ではチューリップ植えに声をかけてもらい参加したり、頂いた球根を植えたりした。地域の掃除などにも参加し、散歩の時は声をかけてもらうなどの関係が築けている。グループホームの20周年には、自治会に対しお礼を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流の際など、入居者との関わりの中で、ご理解頂いている。また、運営推進会議の場においても支援の方法など話す機会があり、力を活かした話題の提供ができています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を行っており状況の報告等を行い、地域担当者やご家族からの助言や意見を頂くことも多い。会議で頂いた意見については、話し合いを行い、サービス向上に活かしている。	自治会長さんや老人会長さんが参加されており、運営に関してたくさんの意見を頂いている。以前、災害時に避難する場所はどこか調べてほしいと言う意見があり、色々なところへ尋ね、避難場所の確保ができた。また、ご家族は特定せず、参加できるご家族にお声かけをし来ていただいている。運営に関して、地域の方を交えて様々なお話をしている事を知ってもらう機会になっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの担当者にも参加頂いている。会議の場で現状の報告を行い、意見を頂いたり情報の交換を行っている。	運営推進会議に参加されているだけでなく、チラシや情報もよくもらっている。尋ねたい事や困ったことなどは、助言を頂く等の関係はできている。グループホームの空きが出た時は、入りたい方を募ったり紹介してもらったりと協力してもらったこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修には積極的に参加し、ミーティングの場で勉強会を行っている。身体拘束につながる為の取り組みについては、運営推進会議の場において報告を行っている。	玄関には、誰か来られた時に分かるセンサーを設置しているが、施錠は行っていない。出ていきたいご利用者がおられる場合は遠目で見守りを行っている。外部研修にも参加されており、勉強会も開催されている。また、毎月、身体拘束につながる為の取り組みとして、グループホームの事例に基づき取り組みを考えている。その取り組みは運営推進会議でも報告されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加について理解を深めている。資料についても事務所の見える場所に掲示しており、入居者の皆様が自分らしく生活できるよう心掛け、ケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会もあり、必要な場合は活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を用い、疑問点がないか、また入居に伴い不安等はないか確認しながら説明を行っている。しっかり納得、ご理解された上で署名を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場に入居者やご家族にも参加して頂き、意見やご要望をお聞きするようにしている。また、お聞きした意見やご要望についてはできる限り尊重し、安心して過ごして頂けるよう努めている。	ご家族から、新型コロナウイルスに関しての心配や、面会ができない不安を聞き、面会についてはがきや写真付きでお便りを月1.2回出すようにした。遠方のご家族も希望があればお便りを送り、喜ばれている。お便りは、一人分ずつ作成し、写真も全て変えている。 電話でサポートができるご利用者には、電話で話をしてもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、コミュニケーションを密にとり職員が話しやすい環境作りに努めている。	毎朝行うミーティングで、ご利用者やケアについて、時間を設け話し合いを行っている。定期的に行うミーティングでも、職員が思い思いに話す場となっている。勤務年数が長い職員がたくさんおり、話しやすい環境である。 職員の声は管理者や代表者にも届きやすく、イベントの開催やインターネットの環境整備などの要望も聞いてもらっている。勤務表の調整も希望を聞き行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制など、個々の意見をできる限り尊重し、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった研修が開催される場合には声かけを行っている。研修参加後にはミーティングの場などで勉強会を行い、キャリアアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加した際には、同業者と交流する機会があり、情報交換を行ったり、事例等を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっての不安や要望等については、ご本人の気持ちに寄り添いながら、安心して過ごして頂けるよう言葉かけを行っている。ご希望があれば体験入居も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同様に、ご家族様の思いにも耳を傾け双方に納得して頂き、安心して過ごして頂けるように努めている。入居後も定期的に状態の報告を行ったり、ご要望をお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご意見やご要望をお聞きした上で、ご本人の状態を把握し、必要としている支援を見極め安心して自分らしく過ごして頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、できることはして頂きながら共に助け合い、関係を築いている。また、時には「昔ながらの知恵」を教えて頂いたり、ともに生活している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化があった際などに担当者会議を開き、改めてご本人やご家族の意向をお聞きしたり、安心して自分らしく生活できるよう、ご家族の方と協力しながら共に支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で難しい部分もあるが、大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れてしまわぬよう、外出等の支援を行っている。	コロナ禍でできることは限られているが、家に帰られたり、受診の際に自宅に寄り一緒にご飯を食べて帰ってきたり、ドライブに行くなど、できる中での支援は行っている。ご家族にも面会を促しており、必要な方には別の出入り口を準備し行ってもらうなどの工夫をし、これまでの関係が途切れないように支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や状態を把握し、安心して過ごせるよう環境づくりに努めている。また、職員が間に入り、入居者同士の関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで築いてきた関係が途切れてしまわぬよう、退居後も連絡をとったり、ご家族宅を訪問したりと関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしく過ごして頂けるよう、会話の中から好きなものを見出したり、ご本人様、ご家族様にご意向などをお聞きしている。希望や意向の把握が難しい場合は、声掛けやその時の表情等からくみ取り、把握に努めケアプランを作成している。	以前は食べたいものを聞き、外食なども行っていたが、今は誕生日に食べたいものを作っている。お酒が飲みたい方にはノンアルコールビールを提供するなど、要望に沿った支援をしている。意向の把握が困難なご利用者は、ご家族にご意向を聞いている。要望はケアプランにも反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様からの情報や、担当されていたケアマネージャーからの情報をもとに暮らしの把握等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活をともにする中で、一人ひとりの生活状況を把握している。毎日のバイタルチェックで体調面の把握に努め、また、表情や声のトーンなど普段の様子から心身状態の把握を行っている。できる事は役割として頂くなど、有する能力など現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態に変化があった場合は、朝の申し送り時に情報を共有し、話し合いを行っている。また、月に1回のミーティングで、評価、プランの検討を行っている。介護保険更新時は、医療と連携をケアに関する注意点等、ご指導頂きながらプラン作成に反映するなど、現状に即した介護計画を作成している。	毎月行うミーティングで、ご利用者の状態とケアについて話し合いを行い、情報を共有している。担当者会議も、その時に合わせて行っている為、会議出席者も多い。ご家族は電話での対応の時もあるが、出席されるご家族もあり、医療面で話し合いが必要な時は医師も出席されている。職員・ご家族・医師など関係者の意見がしっかりと反映されたケアプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心身状態の変化はもちろん、日常の会話の中で言われた言葉や気持ち、また、気づきなどを個別に記録し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況等を把握しながら、ご本人やご家族のニーズに合わせて、その時にあった柔軟な支援を行っている。状態に変化があった場合には、職員間で情報を共有し、またご家族や担当医とも話し合いをしながら、その人らしく生活ができるよう支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動にも参加。散歩の際にご近所の方と会う機会もあり、立ち話をしたりお花や野菜を頂いたり交流もある。行事等にも地域の方をお呼びしたり、交流を行う中で、心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が訪問診療を利用されている。急変時はもちろんの事、少しの変化でもすぐに対応して頂く関係を築いている。気になることがあられる時はご家族様も直接病院へ行かれ、説明を受け安心されている。馴染みの病院に受診されている方は、時に手紙にて状況を報告しDr.より意見や注意点などお聞きしている。	協力医は週に2回の往診に来られているが、ご利用者・ご家族が望めば、これまでのかかりつけ医も選択できる。グループホームから車で5分～10分くらいの距離にあるため、緊急時もすぐに駆け付けてもらえる事は職員の安心にもつながっている。米ぬかのホットパックなどアドバイスもして下さり、職員が作成し、ご利用者に喜ばれている。歯科医の往診も週に1回あっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態報告はもちろんのこと、急変時でもすぐに対応できるよう関係を築いている。主治医とも連携し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、苑での生活状況や心身の状況など情報提供を行い、病院関係者との情報交換や相談に努めている。コロナ禍で難しいが、お見舞いといった際には積極的に病院関係者とコミュニケーションをとり、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調面に変化があった場合は、頻繁に担当者会議を行っている。ご本人、ご家族、医師、看護師、ケアマネ、介護職員と多職種が参加し、現状の報告を行うとともに、今後の方針について話し合いを行っている。入居時には、重度化した場合における対応に係る指針、また、ターミナルケアの指針を本人やご家族に説明し、同意を得ている。	5、6年前から看取りを行っており、入居時にターミナルケアや重度化対応の同意書を取っている。グループホームでできる事、できない事を伝えるが、以前よりホームでの看取りを希望されるご家族も増えた。管理者をはじめパートの看護職や協力医も、夜中でもすぐにかける体制が整っている。そのため、職員の不安は少ない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修への参加で学んだり、担当医や看護師から指導を受けている。それらの情報は職員間で共有し、迅速に対応できるように努めている。また急変時マニュアルの掲示も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防訓練を行い、また、それに加え災害に関しても訓練を行っている。年に2回の消防訓練のうち、一回は消防隊員の派遣を受けご指導頂いている。運営推進会議の場で報告を行ったり、実際に参加して頂きながら協力体制を築いている。	年に2回消防訓練、年1回災害時の訓練と計3回行っている。去年は夜間に訓練をされ、日中の訓練との違いを感じ、どこに明かりが必要かなど学んだ。災害時の訓練では、実際に300m先の公民館まで避難を行っている。自治会長さんも協力的で、実際の大雨の時など1日に何度も訪ねたり、土のうの場所を教えてくれる関係が築けている。ホーム内には必要物品をまとめすぐに持ち出せるようにしている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの特性をしっかりと理解し、それぞれが自分らしく安心して穏やかに過ごすことができるよう言葉かけや対応を行っている。	ご利用者同士の性格や相性もあり、職員が間に入る事で、トラブルにならないよう配慮している。 入浴や排泄で、同性を希望される場合は職員との関係が築けるまで、同性での対応を行っている。トイレの場面などでは、プライバシーを尊重し、声かけにも工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃よりコミュニケーションをとり、日々の会話の中からもご本人の思いや希望をお聞きしたり自己決定ができるよう、言葉かけや環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調にあわせ、無理なく自分のペースで過ごすことができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回、美容師の方がお見えになり散髪を行っている。馴染みの美容室がある方もあり、ご家族の協力のもと支援を行っている。また、行事や外出の際にはご自分で洋服を選んで頂いたりと支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能を活かし、一緒に食事の準備や片づけをしたり、下準備や調理の手伝いをして頂くこともある。メニューは季節のものを取り入れたりお好きなものをメニューに入れたり、楽しみながら食事できるよう支援を行っている。	栄養士がおり、献立は職員が立てている。誕生日には希望のメニューを取り入れたり、ご利用者の好みの物を作っている。ご利用者には、材料を切ったり、盛り付けをしたり、それぞれの役割を持ち調理に参加している。食材を一緒に買いに行く時もある。普段、ベッド上で過ごす時間が長いご利用者にも、できるだけリビングに出てもらい、みんなでご飯を食べる楽しみを持ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分摂取量は日々の記録の中で把握している。一人ひとりの状態にあわせて食事形態も工夫し、栄養バランスを考えた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアや義歯洗浄にて、口腔内の清潔の保持に努めている。また、週に1回、義歯の消毒を行ったり、歯科医の方がお見えになり口腔内の状態を診て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄のパターンを把握し早めのトイレ誘導を行っている。	できるだけトイレでの排泄を促している。チェック表を付けているので、食事前や散歩前など確認しながら声かけを行っている。パット類など金額がかかる事を理解しているため、できるだけ布パンツが使用できるよう職員も声かけしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取にて、便秘の予防に努めている。気分や体調に配慮しながらも適度に体を動かして頂いている。慢性的な便秘の方には、様子を見ながら下剤にて調節行う。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の気分や体調にあわせ、入浴の支援を行っている。入浴ができない時は、足浴や清拭にて清潔の保持に努めている。	入浴は週に3回行っている。日曜日以外は毎日お風呂を沸かしているため、希望で毎日入られているご利用者もいる。気分などで入れなかった場合も、別日に対応ができています。 体調不良時は清拭や足浴を行うが、入浴剤を入れる事で喜ばれている。脱衣所にはヒーターも設置しており、室温にも配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理なく自分のペースで過ごすことができるよう、気分や体調に配慮しながら、言葉かけや環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬の処方があったり、変更があった場合には申し送りにてスタッフ間で共有し、服薬後も状態の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分や体調にも配慮しながら、残存機能を活かし役割をもって頂いたり、レクリエーションや行事等で気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、人混みのある場所への外出は難しいが、気候のいい日には散歩へ出かけたり、苑庭でお茶を飲んだり戸外に出かけられるよう支援を行っている。	春や秋などの季節が良い日は、毎日のようにホームの周りを散歩している。コロナ禍になる前は、年に2回ご家族との交流会をしたり、近所の幼稚園との交流もあったが、今は近所の方に洪柿をもらったり、球根をもらったり、できる範囲での活動を行っている。コロナ禍でもホーム内に籠ることなく、外に向けての活動も積極的に取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状態を把握し、希望や力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知り合いの方から電話があった際には、話ができるよう支援している。また、贈り物等があった際には、お礼の電話を一緒にかけたりと支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが居心地の良い空間で安心して過ごせるよう環境づくりに努めている。また、季節を感じて頂けるよう、その時にあった花を飾ったり壁画を飾って工夫している。	リビングは窓が大きく日当たりが良いため、暖かい。気が合うご利用者とテーブルを同じにし、人間関係にも配慮し配置を考えている。ご利用者はそれぞれの居場所があり、お部屋で過ごされたり、リビングで過ごされたり好きなように思い思いに過ごされている。こまめな掃除を心掛けており、嫌な臭いも全くしない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごすことができるよう、席の配置を行ったり、ゆっくりと自分の時間を過ごす事のできるよう環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持って来ていただいたり、安心してゆったりとした気持ちで過ごすことができるよう支援している。また、ご家族の写真を飾ったり、落ち着いて過ごすことができるよう工夫している。	それぞれの個室には、ソファやタンス、洋服かけ、テレビなど持ち込まれており、ご家族も一緒にくつろげるお部屋になっている。壁にはご利用者それぞれに、なじみの写真が飾ってあり、同じようなお部屋の雰囲気はない。持ち込みに関しては、事前に相談することでほとんどの制限なく持ち込むことができる。ご利用者が望めば、ご仏壇の御仏飯やお茶などのお手伝いも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	持っている力を活かして、できるだけ自立した生活ができるよう安全な環境づくりに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない